

第6学年 図画工作科 学習構想案

日 時 令和7年10月22日（水）第5校時

場 所 美術室

指導者 教諭 田嶋 陽介

1 題材構想

題材名	もようから見つけて「つくろう！マイ弁当包み」（日本文教出版 P39～40）		
題材の目標	(1)表現方法に応じて版画の用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表現を工夫する。[知識及び技能] (2)伝統の文様を鑑賞して感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見つけ、形や色、構成の美しさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考える。[思考力、判断力、表現力等] (3)主体的に古くから生活の中で親しまれてきた伝統の文様のよさや美しさを味わう活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。[学びに向かう力、人間性等]		
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①伝統の文様に触れたり見たりするときの感覚や行為を通して、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解している。 ②表現方法に応じて版画の用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表現を工夫する。	①動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージをもちながら、伝統の文様を鑑賞して感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見つけ、形や色、構成の美しさなどの感じを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。 ②動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージを持ちながら、伝統の文様の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて、感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を深めている。	①つくりだす喜びを味わい、主体的に主題を生み出し、形や色、構成の美しさなどの感じを考え構想を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。 ②つくりだす喜びを味わい主体的に古くから生活の中で親しまれてきた伝統の文様のよさや美しさを味わう鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
題材終了時の児童の姿 （題材のゴールの姿・期待される姿）		本時のゴールの姿・期待される姿	
伝統的な文様に出会い、形や色などの特徴を理解して、自分のテーマを作成し、形や色を創意工夫して「もよう」を考え、オリジナルの包みを表現している児童。		自分のテーマに沿った「もよう」を表すために、効果的でより良い形や色、構成の方法などを考えている児童。	
題材を通した学習課題（題材の中心的な学習課題）		本時の中心的な学習課題	
包みの「もよう」を表現するために、形や色をどのように組み合わせるとよいだろうか。		テーマに沿って、形や色をどのように組み合わせるとよいだろうか。	
本題材で働かせる見方・考え方		本時で働かせる見方・考え方	
形や色の特徴を理解して感情や色合いのイメージを持ち、テーマにそった「もよう」を考えること。		テーマのイメージ(感情、色合い)や、繰り返しの表現に着目して、形や色の組み合わせを考えること。	
指導計画と評価計画（7時間取扱い 本時3／7）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○集めてきた和柄の文様のものや、教師が用意した資料などを見ながら、文様に出会い、造形的な特徴や、形の意図などについて考え、発表したりワークシートにまとめたりする。 ○お弁当の包みについて、自分が大事にしたいイメージを持ち、「マイ弁当包み」のテーマを作成する。	【知①】(発言、ロイロノート) 伝統的な文様に出会い、形や色などの特徴を理解している。 【思①】(発言、ロイロノート) ★文様を見て感じた特徴やよさ、美しさについて気づき、自分の考えをアウトプットしている。 【態①】(発言、ロイロノート) 主体的にテーマを生み出し、形や色、構成の美しさなどの感じを考え、構想を練っている。
二	1	○テーマに沿って、形や色、構成の美しさなどを考えながら、基本となる形を選択する。	【思①】(発言、ロイロノート) ★自分が大事にしたいイメージを持ち、形や色、構成の美しさなどを感じながら、どのように主題を表すか考えている。

三	1 (本時)	○自分のテーマに沿って、形や色の組み合わせを考えて「もよう」を作成する。	【思①】(観察、ロイロノート) ★表現したいテーマに沿って、形や色、構成の美しさなどを感じながら、どのように表すか考えている。
	3	○作成した「もよう」に合わせて簡単な孔版をつかって着彩し、自分の「マイ弁当包み」を表現する。版(16×16 cm)×9 → 布(48×48 cm)	【知②】(観察、キーノート) ★作成した「もよう」に合わせて、版をつくり、工夫して弁当の包みを表現している。 【態①】(観察、ロイロノート) ★テーマに応じて創意工夫し、見通しをもって表す表現の学習活動に粘り強く取り組もうとしている。
四	1	○模様を鑑賞したり表したりして、感じたり考えたりしたことを伝え合う。	【思②】(発表、ロイロノート) ★感じ取った「もよう」のよさや美しさ、特徴などについて友人と話し、見方や感じ方を広げている。 【態②】(発表、ロイロノート) 主体的に、自他のテーマに沿った「もよう」のよさや美しさを味わう鑑賞活動に取り組んでいる。

2 題材における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)				
小学校学習指導要領第5学年及び第6学年 〔知識及び技能〕〔共通事項〕(1)ア、技能に関する事項(2)イ 〔思考力、判断力、表現力等〕発想や構想に関する事項(1)イ、鑑賞に関する事項(1)ア、〔共通事項〕(1)イ				
教材・題材の価値				
本題材は、昔から伝わる文様の表現の意図や特徴などを感じ取ったり考えたりする活動を通して、自分の見方や感じ方を深め鑑賞の能力を高めることができる。また鑑賞活動での学びを生かしながら造形的な見方や考え方を働かせて、児童が自分に合った「もよう」を見出し、色の組み合わせや形の配置など、どのように表すのか試行錯誤を繰り返すことができる題材であり、図画工作に必要な創造力を養うことに適している。				
本題材における系統				
〔小5〕〔図工のみかた〕【鑑賞】 どう見る？どう見える？ 〔小6〕【鑑賞・表現】 もようから見つけて 〔中1〕〔デザインや工芸〕【鑑賞】 暮らしをいろどる文様 〔教科書美術館〕【鑑賞】 受け継がれてきた形				
児童の実態（題材及び本時の目標につながる学びの実態）				
■本題材を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（7名）				
内 容	十分できる (8割以上)	概ねできる (6～8割程度)	あまりできない (6割)	
① 感じたこと、想像したことから表したいことを見つけることができる。	3	4	0	
② 好きな形を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すか考えることができる。	5	2	0	
③ カッターナイフや彫刻刀などを用いて、表したい形に切り取ったり、削ったりすることができる。	5	1	1	
■本題材の学習に関する意識の状況（7名）				
内 容	よくあてはまる	まあまああてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
① 自分の発想力を深めたり広げたりすることができていると思う。	3	4	0	0
② 自分の技能を高めたり広げたりすることができていると思う。	2	5	0	0
③ 課題解決のために、友だちの意見や考えを参考にして表すことができていると思う。	2	5	0	0
④ 作品をよりよくするために、最初の段階からつくりかえることができていると思う。	0	5	2	0
■考察				
【資質・能力に関して】				
本題材の学習に関する意識の状況調査では、「自分の発想力を深めたり広げたりすることができていると思う。」 「自分の技能を高めたり広げたりすることができていると思う。」「課題解決のために、友だちの意見や考えを参考にして表すことができていると思う。」の3つ項目については、回答したすべての児童が肯定的であった。これは普通の授業において、多くの児童が協働的な学びを通して自分の思考を深めようとしているためと考えられる。また、この				

意識の根底には主体的に学習に臨む児童の姿勢がある。更に「作品をよりよくするために、最初の段階からつくりかえることができていると思う。」の項目においては、5名の児童が肯定的な回答をしており、最後まで粘り強く取り組もうとする雰囲気が醸成されていると捉えられる。

【学びに関して】

本題材を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況調査では、「感じたこと、想像したことから表したいことを見つける。」「好きな形を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すか考えることができる。」において、すべての児童が肯定的に回答した。「カッターナイフや彫刻刀などを用いて、表したい形に切り取ったり、削ったりすることができる。」においても、ほとんどの児童が同様に回答した。このように、表したいことを見つけたり、どのように表すかを考えたりする「思考力・判断力・表現力等」に関する学習の定着状況について、すべての児童が肯定的であり、日常的に高い意識で学習に取り組んでいることがわかる。また「知識・技能」について苦手意識を持っている児童が一部いるが、ほとんどの児童が自信を持っていることがわかる。

3 指導に当たっての留意点

＜校内研修の視点から（児童生徒を学びの主体に据えた授業づくり）＞

①学ぶ意欲を引き出す「題材ゴール」や「学習課題の設定」

- ・題材ゴールを「つくろう！マイ弁当包み」と設定することで、生活と関連した身近な弁当包みの作成として児童の意欲を高める。
- ・「テーマに沿って、形や色をどのように組み合わせるか。」を学習課題とし、個別のテーマに沿ってイメージ（感情、色合い）を表せるようにすることで、意欲的に進められるようにする。

②「考える」と「深める」活動の充実

- ・形を複製したり、形の大きさ・向き・配置・色合いを変えたりすることで、テーマに沿った表現に近づけるようにするとともに、他者のアドバイスを通して、より良い「もよう」を自己選択できるようにする。
- ・繰り返しの表現になった時に、全体のつながりやバランスに着目させることで、テーマに沿った表現であるか児童の思考を深める。

③「まとめ」と「振り返り」活動の充実

- ・一人一人が表現した「もよう」について、ロイロノートで個人のまとめを行い、振り返りシートで本時の学習を振り返る。これらをペアで伝え合うことで、学習理解と次時の活動への意欲を持たせる。

＜人権教育の視点から＞

- 対話的な活動では、お互いの意見や考えを大切にした協働的な学びができるように促す。
- イメージを言語化できない児童には、ヒントカードを活用して支援する。

4 本時の学習

(1) 目標

表現したいテーマに沿って、形や色、構成の美しさなどを感じながら、どのように表すか考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意点・評価 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)	備考
見いだす 見通しをもつ	5分	1 前時を振り返り、本時の課題を考える。 (形や色の組み合わせが違う「もよう」を見る。) ◇明るい。渋い、落ち着いている。 ◇整列されている。動きがある。 【学習課題】 テーマに沿って、形や色をどのように組み合わせるとよいだろうか。 【見通し（教科の見方・考え方を働かせて課題解決する方法）】 テーマのイメージ（感情、色合い）や、繰り返しの表現に着目して、形や色を組み合わせよう	(「問い」を生み出す手立て等) ●形の大きさや向き、配置、色合いなどの組み合わせ方で「もよう」の印象が違うことに注目するよう声をかける。 (課題解決に向けて見通しを持つ手立て) ●どんな「見方・考え方」を使って課題解決するとよいか、表示されたものから選択を促す。 (見方・考え方を働かせて課題解決に向かう方向付け) ●自分のテーマにあった、形や色の組み合わせ方をイメージするよう声をかける。	デザイン例 もよう例 電子黒板 タブレット(キーノート) 「見方・考え方」の表示
解決する	30分	2 形を組み合わせたり、色合いを工夫したりして、テーマにあった表現を考える。 ◇たくさん並べてみよう。 ◇向きを変えてみよう。 ◇大きいのと小さいのを合わせたらどうかな。 ◇バランスがおかしくなったなあ。 ◇色を変えてみよう。 ◇落ち着いて見える青を使ってみようかな。 ◇同じような色の組み合わせがいいかな。いろんな色が複数あった方がいいかな。 ◇全部同じ大きさよりも、変化があった方がいいなあ。 3 繰り返しの表現で「もよう」がどのように見えるか確かめ、テーマに沿って効果的か、調整する。 ◇形の大きさが違う方がいいなあ。 ◇縦と横の位置を揃えた方がいいかもしれない。 ◇上下左右のつなぎ目を合わせてみよう。 ◇もう少し楽しい感じになるように、1色だけ変えてみようかな。 4 自分のテーマに沿って、どのように工夫したのか発表する。 ◇「私は、『楽しく食事ができる』をテーマにしたので、動きのある配置や、明るい色合いで表現してみました。」 【期待される学びの姿】 自分のテーマを表すために効果的な形や色、構成の方法などを考えている。	(個別最適な学びへの手立て) ●前時に書いた学習シート(個人テーマ)を常に見えるところに置いて意識させ、思考を促す。 (課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て等) ●組み合わせを変えた「もよう」を複数作成させて、見比べて判断し、より良いものを見つけるように促す。 (対話的な学びへの手立て) ●クラスメイトが作成している途中の「もよう」を互に見る時間を設けて参考にさせ、より良いテーマ表現につなげるように促す。 ●工夫の仕方や見比べる判断が難しい時に、周りの友達に質問したり、一緒に考えてもらったりするように促す。 (深い学びへの手立て) ●繰り返しのデザインになったときに、「もよう」がどのように見えるのか、生活体験と重ねながら、イメージさせて、再考するよう声をかける。 ●作成した「もよう」について、表現した根拠をテーマに沿って説明できるように促す。 【具体的評価規準】思考・判断・表現① 表現したいテーマに沿って、形や色、構成の美しさなどを感じながら、どのように表すか考えている。(方法：キーノート・発言) 【到達していない児童への手立て】 ●テーマに沿って効果的な組み合わせを共に考え、自己決定するよう支援する。	学習シート(個人のテーマ) 弁当包みの写真(数枚)
振り返る	10分	5 本時のまとめを行う。 【まとめ】 テーマのイメージに沿って、形の大きさや、向き、色合いで表し、繰り返し表現によるバランスを考えて組み合わせるとよい。 6 本時の学習からつながる次時の学習活動を知り、本時の振り返りを行う。	●造形的な言葉を用いてまとめるように促す。 ●本時で作成した「もよう」をもとに、次時では孔版を作成することを伝え、見通しや次時への課題を持たせ振り返るよう声をかける。 ●振り返りをペアで伝え合い、学習の学びを共有するよう促す。	タブレット(ロイノート) 振り返りシート

【板書計画】

もようから見つけて「つくろう！マイ弁当包み」

学習課題 ○テーマに沿って、形や色をどのように組み合わせるとよいだろうか。

見通し (教科の見方・考え方を働かせて課題解決する方法)

○テーマのイメージ（感情、色合い）や、繰り返しの表現に着目して、形や色を組み合わせよう。

考える

キーノートで形を組み合わせたり、色合いを工夫したりして「もよう」を作成する。

まとめ テーマのイメージに沿って、形の大きさや、向き、色合いで表し、繰り返し表現によるバランスを考えて組み合わせるとよい。

振り返り ※ロイロノートの「共有ノート」で振り返りをする。

弁当包みの「もよう」作成のイメージ

基準となる「もよう」を作成する。

もよう①

明るい

もよう③

整列されている

もよう②

渋い、落ち着いた

もよう④

動きがある

伝統的な文様

(図)

【図工・美術の「見方・考え方」】

【ICT活用計画】

- 「見出す」「見通しを持つ」段階では、キーノートの「もよう」を電子黒板で表示し、形や色の組み合わせ方の違いによって印象が変わることを紹介する。
- 「解決する」段階では、児童がタブレット上でキーノートを操作し、テーマにそった効果的な形や色の組み合わせを複数作成して比較したり、友人と共に考えたりしながら、課題解決へつなげる。
- 「振り返る」段階では、ロイロノートを活用して自分の言葉で本時のまとめ、振り返りを行う。